

**大学****アーカイブズ**

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2011.10.31 No.45

Japan Association of College and University  
Archives : Eastern Japan Division

## 目 次

・桑尾光太郎「学習院アーカイブズの発足と課題—事務文書移管への対応に向けて—」	1
・石田 順二「美大にとってアーカイブズとは何が日々の業務からの考察—」	2
・浅沼 薫奈「百年史編纂に向けての「新たな」資料と「評価」」	4
・全国大学史資料協議会2010年度総会議事録・記念講演記録	6
・全国大学史資料協議会東日本部会2011年度総会議事録	7
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	12
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	14

2011年7月14日（木）研究会

## 学習院アーカイブズの発足と課題 —事務文書移管への対応に向けて—

学習院アーカイブズ 桑尾光太郎

学習院アーカイブズは2011年4月、昨年度までの総務部総務課院史資料室を改組し法人直属の事務部署として発足した。院史資料室の頃からすでに年間130件を超える資料閲覧・問い合わせがあり、学内部署からの資料の移管、卒業生・元教職員やその関係者からの資料寄贈もしばしば行われている。閲覧利用の対象となる資料は戦前・戦後初期の文書や写真類を中心で、教員の経歴や学生の在学時期等に対する問い合わせも多い。

学習院アーカイブズ設立の目的は、学校の歴史と伝統を確認する場として教育研究・広報などの諸活動に寄与するとともに、文書の整理と管理を進め事務効率の向上など業務改善に寄与することにある。近年国立大学が大学アーカイブズを設置し、情報公開や公文書管理法に対応するため法人文書の保存と公開に取り組んでいる。私学でも事務文書の系統的な保存は課題とされながら、実際はさほど

進展していないように思われる。学習院も事務文書の管理や保存が適切に行われているとは言い難く、今後アーカイブズが一定の役割を果たさなければならない。とはいって今回の報告では、構想を述べて問題を提起をするにとどまざるを得なかった。

学習院アーカイブズは本部棟の地下に収蔵庫兼事務室が置かれ、文書を中心に写真・刊行物・もの資料など段ボール箱に換算して約1,070箱を収蔵している。ところが恒常的な事務文書の移管を始めるとなると、現在の収蔵能力では対応できない。目下収蔵スペースの要求を続けているが、施設設備については学校全体のキャンパスプランで検討されるためその結果待ちという状況である。学校法人学習院は、目白（本部・大学・中等科・高等科・幼稚園）・戸山（女子大・女子中高等科）・四谷（初等科）の三つに分かれ、各キャンパスには固有の歴史がある。三キャンパスの

資料をどのように把握ないし保存管理していくかも、当面の課題である。学習院の場合アーカイブズが一元的に管理するのではなく、基本として各キャンパスでそれぞれ保管し、「どこに何がある」という情報はアーカイブスが把握しておく体制を考えている。また報告では直接触れなかったが、学部学科研究室・小中高校の教員室といった教学部門が保管する文書と、いわゆる事務部門が保管する文書を、それぞれどのように移管・収集していくかも、今後の大きな課題となる。

2009年に学内各部署を対象にして行われたアンケート調査では、多くの部署が文書保管のスペース不足を回答し、また文書取扱規程に即した文書の保存年限設定や保管を実施していなかった。一口に文書の現用・非現用といつても、その区分さえよくわからないのが実状である。当面は明らかに日常業務では使用しない文書、各部署から移管希望のあった文書・資料に対応しながら（すでに相当数の事務文書が移管されている）移管・選別のルールを模索している。文書・資料を受け入れる環境が整備されれば、まず目安として作成完了後30年以上を経た文書ファイルをアーカイブズへ移してもらい、各部署の倉庫スペースに余裕を持たせて文書管理を実施しやすくすると共に、移管された資料についてはアーカイブズが整理・目録作成を行うことを検討している。明治大学の村松玄太氏の言葉を借りれば、当面は「貸倉庫」代わりに使ってもらえばよい。学校にとってアーカイブズが便利で業務改善に役立つ存在となれば、その意義はおのずと理解されるであろう。



報告する桑尾光太郎氏

忘れてならないのは日常作成される事務文書やスナップ写真等が、長期の保存管理を経て学校の歴史を示す貴重資料となることである。学習院アーカイブズには明治期の公文書や授業時間割が残され、閲覧に供される機会が多い。たとえば西田幾多郎や津田梅子が在職した時期の担当教科時間割、乃木希典院長の殉死や夏目漱石の講演（「私の個人主義」）を記した日誌などは、事務職員が作成した記録である。学校案内や広報紙編集で撮影された写真も、数十年経てば貴重な歴史資料であり利用頻度は高い。「偶々残された」ことによって、資料に歴史的価値が付加されるケースは多いが、組織資料の場合は「意識して残す」作業が求められる。見慣れた文書や資料を適切に保存することによって業務改善に資すると共に、資料に歴史的価値を加え、研究教育や広報などに再利用する機会を拓げていきたい。

## 美大にとってアーカイブズとは何か —日々の業務からの考察—

武蔵野美術大学大学史史料室 石田 順二

本日のテーマは「新たな史資料の収集と活用」である。美術大学（美大）特有と考える

史料について報告をし、美大以外の大学において専門や主題を置き換えることで同様に史

料として定義できるものがあるかを皆さんに伺いたい。また美大とは関係なく、新たな収集・活用の可能性についても提案したい。

### [実技科目課題]

本学の教育課程は実技科目及び講義科目で構成されるが、実技科目の存在は大きい。進級は実技科目の取得単位数のみで判定される。卒業所要単位の半分以上は実技科目である。卒業に当たっては「卒業制作」を提出する（一部の学科のみ「卒業論文」も可）。その実技科目は通常一科目につき数点の課題を課される。

平成15年に廃止した武蔵野美術大学短期大学部を記念するため、平成18年に『短大記念誌』を刊行した。当初、当時の教職員と卒業生の寄稿文集とする案から、短大の実技教育課程を辿り記録することを中心に据えるものに変更提案し編集した。各科・専攻の実技教育課程表、実技科目概要を掲載することにより学年毎の実技科目の構成と各科目の概要が判るが、実技課題参考作品を中心とした提出課題のスライドを掲載することにより科目内容を具体的に明らかにすることができた。スライドは研究室閉鎖に伴い当室に移管された史料の一つである。参考作品とは提出課題の内、優秀なものを次年度以降の授業の参考資料として研究室が永久に借り受けたものである。

当室が協力した平成18～19年度の共同研究は、本学の前身である帝国美術学校の師範科の教育課程と制作活動に関する調査研究であった。昭和9年度師範科卒業生（故人）のアトリエから在学時の全課題が発見されそれを分析したものである。師範科は実習として日本画、西洋画、工芸図案（現在のデザイン）を履修していることは判っていたが、課題からその具体的な内容や課題のレベルの高さ、学生の力量が見てとれる結果となった。

平成20年に帝国美術学校工芸図案科課題約100点を受贈した。当時の教員のご遺族が保管していた。昭和10年代半ばの学生が制作したインダストリアル・デザイン、建築等の図



報告する石田順二氏

面等により、課題内容、技法、学生のレベルが判る。また銃の部品のレンダリングがあつたり、図面にある「昭南」、「大東亜建設」、「外地開発及宣伝」等の言葉から社会情勢が美術学校教育にも影を落としていることが窺える。

以上から、課題は実技教育課程の内容、レベルとその成果（学生の理解度、技術レベル、技法等）が具体的に見て取れる貴重な史料と言える。ただし一次史料である課題本体は原則として学生に戻されるため、また二次史料となるスライドも研究室が撮影、保存することが前提であり、いずれも収集できる機会は少ない。

### [作品]

美大のアーカイブズというと、時折、美術作品も所蔵しているように思われるが、当室は基本的には美術作品を所蔵しない。作品寄贈の申し出があつても、収蔵庫の環境（温室度管理、スペース等）から史料保存を第一に考え美術館に取り次ぐようにしている。

しかし作品は美大にとって史料的価値は高いと考える。本学で指導に当たった教員の作品、卒業生の作品（時には在学時の作品）などが展示される展覧会を観に行く。教員の作品は、当人が担った実技教育と密接に繋がる。また時代を遡るほど教員と学生との絆は強く、学生は教員の影響を受けている。卒業生の作

品は在学時に受けた実技教育の傾向を帯びており、更に当時の美術界の動向、時代の影響が感じられる。教員や卒業生が制作した作品は、制作者の個性・感性を超えて、当時の歴史の一端を垣間見せてくれると感じる。当室は作品を所蔵しないが、学外機関（美術館）が良好な環境で本学史料を保存してくれていると考えている。

#### [他大学とのネットワークの可能性]

帝国美術学校は創立6年後の昭和10年に同盟休校事件が起きた。学内を二分する争いの後、袂を分かつた教員、学生により多摩帝国美術学校（現多摩美術大学）が設立された。従って多摩美とは創立時の歴史、教員、学生を共有している。また創立時の校主、木下成太郎は大東文化大学の設立者の一人でもある。

いくつか例を上げたとおり、本学の歴史に関わる人物が他大学の沿革史上の人物と重なりあうことは思いの外多い。また、戦時下の美術学校学生による戦争画制作について他の美術大学に照会等を行うなど、これまで美術大学として共通する事象も多々あった。

多摩美術大学大学史編纂室とは前置き無く情報交換を行う間柄となっているが、他大学に照会する際、窓口となる部署がどこか判らないと照会も容易ではない。その点、全国大学史資料協議会の会員校は担当部署が（時には担当者も）判るため照会も容易であり、もっと活用できるのではないか。また照会先を特定できない場合、協議会のホームページの「お知らせ」欄を使って全会員に対して照会、協力依頼等をすることも可能と考える。

## 百年史編纂に向けての「新たな」資料と「評価」

大東文化大学大東文化歴史資料館 浅沼 薫奈

大東文化大学（学園）において2006年度に設置された「大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）」は、理事会での同窓生理事たちの強い同意と学内教職員の積極的働きかけによって、提案から開設までの過程は比較的速やかに進められた。その目的は規程上「学園及び大学を始めとする設置校の歴史に関する調査及び研究並びに校史に係る資料の収集、整理、保存及び公開」を行うこととされたが、具体的には2013年に迎える90周年とその後の100周年記念事業への準備が課せられた主たる任務であった。

歴史資料館という名称からはかなり大規模な運営がなされていると想像されがちであるが、実際には開設時に事務室、会議室、収蔵庫、展示室といった各スペースがあり、広く学内に割かれ与えられたものの、具体的な整理すべき史資料が手元にあったわけではない。収集すべき史資料は何かということを検討す



報告する浅沼薰奈氏

るところがスタートであった。大東文化大学としてはそれ以前に50年史、70年史等を刊行していたが、年史編纂後の史資料についてはほとんど紛失してしまっていたため、学内外に所蔵されている資料のイチからの再収集で

ある。そういう意味では、すべてが「新たな史資料」であった。

資料収集の方法としては、学内各部署からの資料移管については後回しとし、先ずは同窓生からの聞き取りや寄贈資料を依頼することから始めたこととした。同窓生の年齢や個人保管という側面から紛失等の心配もあるため優先的にあたるべき方々を判断できたり、ある程度そういう個人的に保管されていた史資料を収集しながら大東文化大学の資料の傾向や特徴というものを把握していくことが必要であった。また、そもそも同窓生たちがアーカイブスの設置を後押ししてくれたことからもわかるように、同窓生たちは在学時の思い出を大切にされ、それを語る場を欲されている方が多くいらっしゃった。「思い出の記」などを積極的に書いてくださる方もいた。一方、学内資料に関しては、そういう活動を行いつつ徐々に学内資料の移管の方向性や方法について学園事務組織と相談していくのが現実的であった。

受贈した資料の傾向は大まかに見れば、創設初期には「漢籍」など漢学関係のものが多く、その後は書道関係やスポーツ関係のものへと中心が動いていく。また、一般に私学は創設関係資料を重視するが、当校の場合は帝国議会の決議を経て創設された経緯もあって一人のカリスマ的創設者を擁しているわけではないため、創設に携わった関係者それぞれの「創設関係資料」を当たっていくだけでもかなり煩雑な資料群となつた。すなわち帝国議会の決議に携わった政治家を多数含んでいるほか、多くの漢学者たちの思想も創設経緯に深く関わっていたため、創設理念を明確にするだけでも多角的な視点が必要となつた。

既刊の年史は50年史と70年史とあり、それに加えて80周年に刊行した記念写真誌がある。その中で既述され評価されていることについて、その後の調査や発見された資料によって明らかな誤りは訂正を加え今後の年史編纂へ備えるのは当然であるが、一方で「新しい視点」というものが生じる場合もある。例えば、これまで経営母体や学校側からの視点からの



報告者とフリートーキングの様子

み語られてきた事実について、当時学生の立場で見たときには全く違う事実として受け止められている場合がある。それは検証すれば曖昧であったり不確かな記憶であったりもするが、こと個別大学史という場にあってはそういう個人が見た大学の「印象」というものに再度注目し、当時の関係者たちが見て感じていたことそのものを歴史的事実として残すことが大切であるとオーラルヒストリーを通じて感じている。公的な事実と私的な視点というものを隣り合わせにして見ていくことで、個別大学の歴史が見えてくることがあるからである。また、大学史の中ではいわゆる「負」の側面にあたるものとして学生同盟休校や戦時下体制、大学紛争問題などがある。これらを見るにあたり、学生たちが大学をどのように見ていたのかという視点は重要である。ともすれば一般論に終始しがちなこういった問題について、その当時在学していた学生や教職員たちの生の声を聞き、語られた言葉をそのまま記録しておくこともアーカイブとしての役割の一つである。

最後に、学内には「禁複写」や閲覧、転載などを禁じている文書群がある。特に学内に生じた不祥事事件などについては、当事者や直接的間接的に関係した膨大な史資料が発生するものであるが、アーカイブスとしてそういうデリケートな資料群についてどのような扱いを行うことが求められ必要とされるのか、今後の課題の一つである。

**全国大学史資料協議会  
2010年度総会議事録・記念講演記録**

日 時 2010年10月6日(水)

14時40分～15時15分

場 所 放送大学熊本学習センター

(熊本大学内) 3階大講義室

出席会員

東日本部会=27会員33名

(内訳：24大学30名、個人3名)

西日本部会=17会員24名

(内訳：16大学23名、個人1名)

総 計=44会員57名

(内訳：40大学53名、個人4名)

<東日本部会>

愛知医科大学 愛知大学 学習院

神奈川大学 関東学院 慶應義塾

恵泉女学園 成蹊学園 専修大学

國學院大学 国士館大学 淑徳大学

女子美術大学 大東文化大学

東海大学 東京経済大学

東京農業大学 富山大学

日本体育大学 日本大学

北海道大学 武蔵野美術大学

明治学院 立教大学 立正大学

中村 青志 西山 伸 野澤 和範

<西日本部会>

追手門学院大学 大阪大学

大谷大学 関西大学 関西学院

熊本大学 甲南大学 神戸女学院

西南学院大学 同志社女子大学

同志社大学 広島大学 福岡大学

桃山学院 立命館 龍谷大学

橋本 弘之

欠席届提出会員

東日本部会=41会員

(内訳：29大学、個人12名)

西日本部会=25会員

(内訳：17大学、個人8名)

総 計=66会員

(内訳：46大学、個人20名)

協議会事務局・広島大学・小宮山道夫氏の司会で進行した。

会長校欠席のため、開会の挨拶を神奈川大学（東日本部会会长）・澤木武美氏が行った。

議長選出 議長に後藤正明氏（福岡大学）、副議長に岩崎俊彦氏（専修大学）が選出された。

議 事 1. 全国大学史資料協議会役員会の報告について

事務局校（広島大学・小宮山道夫氏）から役員会の内容について報告があり、承認された。

2. 2010-11年度役員の交代について  
事務局校から会長校として桃山学院、副会長校として神奈川大学、事務局校として広島大学を選任したとの報告があり、全会一致で承認された。

3. 2010年度東・西日本部会事業計画報告

東日本部会事務局（武藏野美術大学・石田順二氏）、西日本部会庶務校（広島大学・小宮山道夫氏）から、各部会事業計画書に基づき本年度の事業計画が報告された。

4. 規約の一部改正について

事務局校から改正趣旨について説明があり、第1条、第7条第2項、第10条の改正について全会一致で承認された。

5. その他

特になし。

新会長挨拶 西口忠氏（桃山学院）が就任の挨拶を行った。

会場校挨拶 谷口功氏（熊本大学学長）が会場校挨拶を行った。

講師紹介 安田宗生氏（熊本大学60年史編纂室長・熊本大学文学部名誉教授）により、講師の紹介が行われた。

記念講演 崎元達郎氏（放送大学熊本学習センター所長、前熊本大学学長）が「熊本大学の歴史的財産とユニバーシティ・アイデンティティ」を演題として記念講演を行った。

講 演 「熊本大学の歴史財産とユニバーシティ・アイデンティティ」

講 師 放送大学熊本学習センター所長・前  
熊本大学学長崎元達郎氏

(講演概要) 熊本大学は、2009年度に創立60周年の節目を迎えた。あわせて熊本大学60年史編纂事業もスタートし、その歴史と伝統をあらためてふりかえる営みが進められている。本講演は、①熊本大学の沿革②熊本大学の歴史的建造物③熊本大学の歴史資料④熊本大学としての支援策と取組み、という内容で進められた。

熊本大学の発祥は、1887(明治20)年の旧制第五高等学校の設置を起点とするが、医学部や薬学部のように起源が江戸時代まで遡る部署もある。五高時代には、小泉八雲・夏目漱石をはじめ、池田勇人・佐藤栄作といった各界の著名人が門をくぐり、多くの人材を輩出してきた。その伝統と教育精神の底流は、現在も「熊本スピリッツ」という言葉で今もなお受け継がれている。

大学構内には、旧制第五高等学校本館(現「五高記念館」)などの歴史的建造物が残っており、今もなお学内施設として利用されているほか、「熊薬ミュージアム」のような保存機関もある。さらに、同大学では「永青文庫」や「時習館文庫」といった旧熊本藩時代の歴史的資料を多数所蔵している。こうした歴史的建造物や学術資料を含めた資産を継承し、活用・研究するための「熊本ミュージアム構想」の実現化が模索されている。

崎元氏は、今後の大きな課題として、これらの学術的財産を活用することが、熊本大学としての UI(ユニバーシティ・アイデンティティ)の形成への大きな課題である、と提示した。「熊本大学のブランドイメー

ジを高めていく」—その取り組みとして、大学のもつ歴史と伝統を如何に見つめ明確にしていくかが、今後の発展の道標となる、と指摘した。60年史編纂事業も、その取り組みの一つとして位置づけ、単なる事実の羅列にとどまらない、史実の記録を残すための重要な営みとしたい、と述べて講演をしめくくった。

(記録担当: 東海大学)

見 学 熊本大学五高記念館

講演終了後、上野平真希氏(熊本大学60年史編纂室)の案内により、五高記念館を見学した。

情報交換会

見学終了後、17時30分から熊本大学食堂「FORICO」において、参加者58名で情報交換会を開催した。

### 全国大学史資料協議会東日本部会 2011年度総会議事録

日 時 2011年6月3日(金)

14時30分~15時15分

会 場 女子美術大学相模原キャンパス

1号館2階第2会議室

[部会総会の成立]

\*現会員数と出欠状況

名誉会員

<総計>4 <出席>1 <欠席届>1

<未回答>2

機関会員

<総計>67 <出席>32 <欠席届>27

<未回答>8

個人会員

<総計>27 <出席>4 <欠席届>17

<未回答>6

総計

<総計>98 <出席>37 <欠席届>45

<未回答>16

\*総会定足数は、機関会員67(休会員を除く)、個人会員27の総計

94の過半数=48である。

\* 部会規約11条第5項に基づき欠席届を総会議長への委任状とするため、出席会員数(36)と欠席届提出会員数(44)の合計は80となり、部会総会は成立した。

[出席会員]

愛知教育大学 青山学院 學習院  
神奈川大学 関東学院 慶應義塾  
惠泉女学園 工学院大学  
國學院大學 国士館大学 淑徳大学  
上智大学 女子美術大学 専修大学  
大東文化大学 拓殖大学 中央大学  
東海大学 東京経済大学  
東京農業大学 東洋学園大学  
東洋大学校友会 南山大学  
日本女子大学 日本大学 法政大学  
武藏野美術大学 明治学院  
明治大学 明星大学 立教大学  
立正大学  
鈴木 秀幸 阿部 伊作 内山 宏  
谷本 宗生 野澤 和範

(出席者合計48名)

会場挨拶 横山 勝樹氏

(女子美術大学学長)

開会の挨拶 澤木 武美氏

(会長・神奈川大学大学資料  
編纂室)

黙祷 冒頭、3月17日に逝去された個人会員の中村頼道氏に対して黙祷を捧げた。

議長の選出 議長 西嶋 優氏

(東京農業大学図書館)

副議長 浪江 健雄氏

(国士館史資料室)

議事 1. 2010年度事業報告書・同決算報告について

事務局(日本大学)から配布資料「2010年度事業報告書」に基づいて昨年度の事業が報告され、会計委員(大東文化大学)から配布資料「2010年度収支決算書」(p.9表1)に基づいて昨年度の収支決算が報告された。次いで監査委員



東日本部会2011年度総会

(國學院大學)から決算が適正であった旨の監査報告(p.10)があり、各報告について満場一致で承認された。

2. 2011年度事業計画案・同予算案について

事務局(日本大学)から配布資料「2011年度事業計画書(案)」に基づいて本年度事業計画案が説明され、次いで会計委員(大東文化大学)から配布資料「2011年度収支予算書(案)」(p.11表3)に基づいて今年度予算案が説明され、審議の結果、事業計画、予算とも原案通り満場一致で承認された。

3. その他

特になし。

閉会の挨拶 椿田 卓士氏(副会長・東海大学学園史資料センター)

見学 女子美アートミュージアム、女子美術大学図書館

[概要]

部会総会終了後に、女子美術大学歴史資料室の内藤幸江氏、澤井智実氏、山田直子氏、松村奏子氏の案内により、女子美アートミュージアム(通称 JAM)と収蔵庫および図書館を見学した。

女子美アートミュージアムは、創立100周年を記念して相模原キャンパスに設立した美術館である。絵画

【表1】

## 全国大学史資料協議会東日本部会

## 2010年度収支決算書

2010年4月1日～2011年3月31日

## 【収入】

(単位 円)

項目	予 算	決 算	差 異	摘 要
会費収入	1,385,000	1,465,000	△ 80,000	
法人等会員	1,260,000	1,340,000	△ 80,000	67機関（新入会5、休会からの復帰1）、休会3@2万円
個人会員	125,000	125,000	0	25名（新入会3、退会1）、未納1@5千円
利息収入	1,000	869	131	
預貯金利息	1,000	869	131	銀行利息、郵便貯金利子
参加費収入	810,000	596,000	214,000	
部会総会参加費	315,000	245,000	70,000	愛知大学35名@7,000円
全国総会参加費	495,000	351,000	144,000	熊本大学39名@9,000円
印税収入	5,000	15,840	△ 10,840	
印税収入	5,000	15,840	△ 10,840	『日本の大学アーカイブズ』33部×480円（定価10%）
雑 収 入	0	3,200	△ 3,200	「大学史展図録」@1600円×2冊
合 計	2,201,000	2,080,909	120,091	

## 【支出】

項目	予 算	決 算	差 異	摘 要
運営費支出	350,000	16,762	333,238	
総会費	150,000	8,632	141,368	運営費
幹事会費	50,000	0	50,000	会場費・運営費
部会研究会費	150,000	8,130	141,870	運営費
謝礼支出	150,000	32,380	117,620	
講師謝礼等	150,000	32,380	117,620	研究部会・全国総会講演料
消耗品費支出	10,000	0	10,000	
消耗品費	10,000	0	10,000	事務消耗品費
印刷費支出	500,000	468,100	31,900	
印刷費支出	500,000	468,100	31,900	会報印刷費（年2回）、角2封筒2500部
通信費支出	150,000	94,740	55,260	
事務連絡費	150,000	94,740	55,260	事務連絡費、会報送料他
手数料支出	20,000	4,200	15,800	
手数料等	20,000	4,200	15,800	銀行振込手数料他
参加費支出	500,000	189,905	310,095	
総会参加費	500,000	189,905	310,095	情報交換会費（5月部会総会、10月全国総会）
事業費支出	1,750,000	1,151,562	598,438	
出版事業	600,000	202,500	397,500	叢書編集印刷費、その他
展示事業	1,000,000	891,450	108,550	「大学史展図録」350部印刷費・集計費・委員交通費等
ホームページ事業	150,000	57,612	92,388	維持・運営費、会報1～26号PDF化費
30周年記念事業積立金繰入支出	500,000	500,000	0	
予 備 費	50,000	0	50,000	
合 計	3,980,000	2,457,649	1,522,351	
当年度収支差額	△ 1,779,000	△ 376,740	—	
前年度繰越収支差額	2,974,792	2,974,792	—	
翌年度繰越収支差額	1,195,792	2,598,052	—	

【表2】

## 2010年度貸借対照表

2011年3月31日

## 【資産】

(単位 円)

項目	本年度末	前年度末	増 減	摘要
30周年記念事業積立金	500,000	0	500,000	三井住友銀行普通預金
銀行預金	2,493,813	2,911,246	△ 417,433	
三井住友銀行	2,493,813	2,911,246	△ 417,433	経営支店普通預金
郵便貯金	5,340	5,337	3	
ゆうちょ銀行	5,340	5,337	3	通常貯金
現 金	98,899	58,209	40,690	
会 計 校	5,071	5,751	△ 680	東京経済大学
事 務 校	50,048	16,638	33,410	武蔵野美術大学
事 務 校	43,780	35,820	7,960	日本大学
合 計	3,098,052	2,974,792	123,260	

## 【負債・収支差額】

(単位 円)

項目	本年度末	前年度末	増 減	摘要
負 債	500,000	0	500,000	
30周年記念事業引当金	500,000	0	500,000	
収支差額	2,598,052	2,974,792	△ 376,740	
収支差額	2,598,052	2,974,792	△ 376,740	
合 計	3,098,052	2,974,792	123,260	

2011年4月14日

上記の通り報告します。

会計委員 東京経済大学 伊藤 彰男印  
 大東文化大学 浅沼 薫奈印

2011年4月27日

監査の結果、適正と認めます。

監査委員 東洋大学校友会 豊田 徳子印  
 国学院大学 斎藤 智朗印

作品を中心に、卒業生作家、教員、縁の深い作家などによる2千点以上の作品を収蔵し、年数回の企画展を開催している。染色コレクション(旧カネボウコレクション)1万2千点も収蔵している。当日は、創立110周年を記念した同窓会企画展「予期せざる出発」を見ることができた。この企画展は2010年10月から有楽町朝日ギャラリーで催されたものを今回学内で開催したものである。テーマ「予期せざる出発」の主旨は、「女性は、予期しなかった状況においても、降りかかった苦難を乗り越

え、次の時代を創造し、生き抜いてきた」歴史を若い女子美パワーに期待してとのことであった。絵画・彫刻など作品による展示がもつ力を感じさせるものであった。また、常時、記念グッズを販売していることが印象に残った。同ミュージアムは、学生の実践の場、小中学校を含む地域社会との連携の場、として活用されているとのことである。

続いて、ミュージアム収蔵庫を見学した。作品の形態と大きさのバラツキなどへの工夫が紹介され、先般の地震対応については作品棚出入り

【表3】

## 全国大学史資料協議会東日本部会

2011年度収支予算書（案）

2011年4月1日～2012年3月31日

## 【収入】

(単位 円)

項目	2011年度予算	2010年度予算	増 減	摘要
会費収入	1,475,000	1,385,000	90,000	
法人等会員	1,340,000	1,260,000	80,000	67機関@2万円 (3/31機関67)、新入会2、休会5
個人会員	135,000	125,000	10,000	27名@5千円 (3/31個人26)、新入会3、退会2
利息収入	1,000	1,000	0	
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息、郵便貯金利子
参加費収入	675,000	810,000	△ 135,000	
部会総会参加費	315,000	315,000	0	45名 @7,000円 (2010年度愛知大学35名)
全国総会参加費	360,000	495,000	△ 135,000	40名 @9,000円 (2010年度熊本大学39名)
印税収入	5,000	5,000	0	
印税収入	5,000	5,000	0	『日本の大学アーカイブズ』10部×480円 (定価10%)
雑 収 入	0	0	0	
合 計	2,156,000	2,201,000	△ 45,000	

## 【支出】

項目	2011年度予算	2010年度予算	増 減	摘要
運営費支出	120,000	350,000	△ 230,000	
総会費	50,000	150,000	△ 100,000	会場費・運営費
幹事会費	20,000	50,000	△ 30,000	会場費他
部会研究会費	50,000	150,000	△ 100,000	会場費・運営費
謝礼支出	100,000	150,000	△ 50,000	
講師謝礼等	100,000	150,000	△ 50,000	研究部会・全国総会講演料
消耗品費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費
印刷費支出	400,000	500,000	△ 100,000	
印刷費支出	400,000	500,000	△ 100,000	会報印刷費 (年2回)
通信費支出	150,000	150,000	0	
事務連絡費	150,000	150,000	0	事務連絡費、会報送料他
手数料支出	10,000	20,000	△ 10,000	
手数料等	10,000	20,000	△ 10,000	銀行振込手数料他
参加費支出	300,000	500,000	△ 200,000	
総会参加費	300,000	500,000	△ 200,000	情報交換会費 (5月部会総会、10月全国総会)
事業費支出	500,000	1,750,000	△ 1,250,000	
出版事業	400,000	600,000	△ 200,000	叢書編集印刷費、その他
展示事業	0	1,000,000	△ 1,000,000	2010年度は図録制作費
ホームページ事業	100,000	150,000	△ 50,000	維持・運営費
30周年記念事業積立金繰入支出	500,000	500,000	0	
予 備 費	50,000	50,000	0	
合 計	2,140,000	3,980,000	△ 1,840,000	
当年度収支差額	16,000	△ 1,779,000	—	
前年度繰越収支差額	2,598,052	2,974,792	—	
翌年度繰越収支差額	2,614,052	1,195,792	—	

箇所を紐で括ったなどの具体的な説明があった。

図書館見学では、特別資料として展覧会カタログの収集、貴重書の保管方法などについて説明があった。

今回の見学会では、美術大学固有の多様な資料の保存、展示について見学することができた。一方、校史に関わるもののが今後の課題として残っているように思われた。

(伊藤 韶男)

**情報交換会 女子美術大学相模原キャンパス**  
2号館食堂において情報交換会を開催した。会場校の女子美術大学調査役（歴史資料室担当）の遠藤九郎氏から開会の挨拶と乾杯の発声があった。司会進行は武蔵野美術大学大学史史料室の阿久津朋子氏が務め、新規入会会員、初参加者の挨拶があり、和気あいあいの雰囲気の中、情報交換を行った。最後に女子美術大学歴史資料室の内藤氏が閉会の挨拶をし、会を終了した。

### 全国大学史資料協議会東日本部会 幹事会議事録

第109回 2011年4月28日(木) 14時～17時

会場 武蔵野美術大学新宿サテライト

room E

出席 神奈川大学 國學院大學 成蹊学園  
大東文化大学 東海大学  
東京経済大学 東洋大学校友会  
日本大学 武蔵野美術大学  
明治大学 中村青志

議題 審議前に、3月17日に逝去された個人会員の中村頼道氏に対して黙祷を捧げた。

#### 1、2011年度幹事会について

まず2011年度の研究会概要・講演等記録の担当について担当表を基に確認した。幹事会の開催日については曜日を固定しない方向で

開催することが決まった。

#### 2、2011年度研究会について

研究会担当（東海大学）より、1月に実施したアンケートの集計結果が報告された。次いで今年度研究会について、全国研究会の他に年4回開催することとそれぞれの大まかな内容について提案され了承された。東北地方太平洋沖地震のため開催を延期した3月の研究会は7月の研究会として開催することを決定した。また秋に明治大学で開催される大学史に関する特別展の見学会を11月の研究会とすることとなった。

2011年度の研究会の年間テーマは、2010年度のテーマ「新たな史資料の収集と活用」を継続することとなった。

研究会の企画立案は研究会担当が中心となり幹事会はそれをサポートする。幹事会が開催を決定した後、交渉から実施までは担当幹事が担うことを確認した。

全国研究会の大会テーマについては、各幹事が素案を作成し、次回幹事会で検討することとなった。

#### 3、2011年度東日本部会総会について

部会総会資料及び当日の役割分担を確認した。また、会計担当（東京経済大学）より、収支決算書・収支予算書をwebサイト等に掲載し、公開してはどうかという提案があり、了承された。

#### 4、会報の発行について

会報担当（神奈川大学）より、3月30日付で会報44号を発行したとの報告があった。

#### 5、東北地方太平洋沖地震による被災会員への支援について

阪神淡路大震災の際に東日本大学史連絡協議会から西日本大学史

担当者会に贈られた義援金の配布方法及び西日本大学史担当者会が実施した被災状況調査について報告があり、東日本部会として会員全員に被災状況の調査を行うこととなった。

#### 6. その他

##### ・会員の入退会について

入会届のあった松山龍彦氏、阿部伊作氏、東京女学館史料編纂室、西村昭子氏、国立音楽大学校史編纂準備室の入会を承認した。また、休会届のあった東京基督教大学、聖学院大学の休会と、退会届のあった佃隆一郎氏および逝去された中村頼道氏の退会を承認した。(東京基督教大学は機関会員を休会し、同大学図書館の阿部氏が個人会員として入会した)

##### ・幹事会メーリングリストの作成について

事務局（日本大学）より、さらなる情報の共有化を図るために幹事会のメーリングリスト作成の提案があり、了承された。

##### ・協議会リーフレットについて

西日本部会が作成したリーフレット案を基に、東日本部会として、規約を掲載する場合は全文とした方がいいのではないか、活動紹介文の文字数が多すぎるのではないか、写真は見学会以外のものも掲載すべきではないか、ということを提案することとなった。また、東日本部会は必要部数を600部とすることとなった。

石田氏（武蔵野美術大学）より、これまでに10月に幹事会を1日に2回も開催するようなことが何度もあったため、定期的に9月に幹事会を開催したらどうかという提案があった。

第110回 2011年6月3日(金)

13時～14時10分

会場 女子美術大学相模原キャンパス

1号館2階第1会議室

出席 神奈川大学 慶應義塾

大東文化大学 東海大学

東京経済大学 東洋大学校友会

日本大学 武蔵野美術大学

明治大学

##### 1. 2011年度研究会について

研究会担当（東海大学）より、今年度の研究会の予定及び確認事項について説明があった。7月研究会の日程は7月14日（木）とし、東日本大震災のため延期となった本年3月研究会の内容（会員研究発表会）で、武蔵野美術大学新宿サテライトを会場として開催することが報告され、了承された。なお、11月の研究会は明治大学が、1月の研究会は東洋大学校友会が担当校となった。担当校は各回の研究会の交渉から当日の運営までを担当し、東海大学は研究会の年間スケジュール等全体的な統括を行うことが確認された。

##### 2. 2011年度総会・全国研究会について

事務局（日本大学）より、今年度総会・全国研究会（会場：皇學館大學）のスケジュール案が説明された。全国研究会のテーマは「災害とアーカイブズ」に決定した。報告者の選出及び連絡等については事務局に一任された。

##### 3. 2011年度東日本部会総会運営について

事務局（日本大学）より、部会総会の時間割・担当者等の最終確認があり、了承された。

##### 4. 会員への被災状況アンケートについて

事務局（日本大学）より、本年

3月に発生した東日本大震災における東日本部会会員への被災状況アンケートの現在までの集計結果について報告があった。今後、提出される回答を補ってとりまとめ会員で共有することと、とりまとめた後の対応について引き続き幹事会で検討することが確認された。

#### 5. その他

##### ①『研究叢書』第12号について

事務局（日本大学）より、西日本部会の編集担当（同志社大学）からの目次案及び図版等に関する資料の説明があり、叢書刊行について了承された。なお、図版・目次表記等に関しては、東日本部会の提案を西日本部会へ伝えることが確認された。

第111回 2011年7月14日（木）

13時～14時30分

会 場 武蔵野美術大学新宿サテライト  
roomE

出 席 神奈川大学 國學院大學 成蹊学園  
大東文化大学 東海大学  
東京経済大学 日本大学  
武蔵野美術大学 明治大学  
中村 青志

議 事 1 2011年度東日本部会総括

事務局（日本大学）より今年度部会総会当日の参加状況等の報告があった。また、総会時配布資料の2011年度収支予算書・2010年度収支決算書については、ホームページと会報に掲載することが了承された。

#### 2 2011年度研究会について

研究会担当（東海大学）より、今年度研究会予定等について報告があった。11月研究会担当の明治大学村松氏から、創立130周年記念事業の概要説明があった。3月研究会については、日本大学と神

奈川大学が担当し、鈴木秀幸名誉会員の近著をテキストとする研究会を行うことになった。

#### 3 2011年度総会・全国研究会について

事務局（日本大学）より、今年度総会・全国研究会の日程案について最終確認があり、了承された。また、役割担当等については、次回幹事会で決定することになった。

なお、全国研究会準備会を、9月13日（火）武蔵野美術大学新宿サテライトで開催することとした。

会場校の皇學館より総会・全国研究会への協賛金提供の意向を受け、検討の結果、戴くことを決定した。なお、協賛金は全国研究会費用として支出する方向で全国役員会に諮ることになった。

#### 4 その他

①西日本部会から受け取った協議会の新パンフレット校正について、掲載図版や一部のレイアウト修正等を東日本部会の要望として伝えすることとした。

②4月に入会した個人会員の西村昭子氏から入会取り消しの申し出があり、了承された。

#### 全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

第75回 2011年7月14日（木）

14時30分～17時15分

会 場 武蔵野美術大学新宿サテライト  
roomA・B

出 席 愛知教育大学 青山学院 学習院  
神奈川大学 関東学院 恵泉女学園  
皇學館 國學院大學 国士館大学  
芝浦工業大学 自由学園 淑徳大学  
女子美術大学 成蹊学園  
大東文化大学 拓殖大学  
多摩美術大学 東海大学  
東京家政大学 東京経済大学

東京農業大学 東洋学園大学  
 南山大学 日本体育大学 日本大学  
 武蔵野美術大学 明治大学  
 明星大学 立正大学  
 東田 全義 鈴木 秀幸  
 谷本 宗生 中村 青志  
 倉方 慶明  
 [オブザーバー]  
 桂 典子（国立女性教育会館）  
 （以上49名）

会長挨拶 澤木 武美氏  
 （神奈川大学大学資料編纂室）  
 司会 齊藤 智朗氏  
 （國學院大學校史・学術資産研究センター）  
**概要** 2010年度研究会の年間テーマ「新たな史資料の収集と利用」に基づいて、3人が20分ずつ報告した。その後、参加会員によるフリートーク形式の検討会が行われた。東日本大震災の影響により、2010年3月に予定していた内容を延期したもので、2011年度の年間テーマについても、2010年度のテーマを継承することが提示された。

**報告1** 桑尾光太郎氏（学習院アーカイブズ）  
 「学習院アーカイブズの開設と課題—事務文書移管への対応に向けて—」

2011年4月に開設されたばかりの学習院アーカイブズにとって目下一番の課題は、学内事務文書の移管の流れをどのように形成していくか、と述べた桑尾氏。前身組織時代の2009年に学内78部署を対象にアンケート調査を実施し、約半数の部署で文書保管スペースが不足していること、文書取扱規程に則した管理ができていないことなどが判明した。

そうした状況から、文書の保存年限や現用・非現用の定め方、電子データや写真といった形態の異なる資料の取り扱い方法など、大小様々なルール作りが必要となる。桑尾氏は「作

成後30年以上を経た文書の移管」と、大まかな枠組みを提示、呼び掛けることから始めるという。

新たな史資料の収集よりも、従来やってきたことを確実に持続していくたい。あれこれ手を出すと中途半端に終わってしまう。業務の優先順位をどう設定するかが大切、と結んだ。

**報告2** 石田順二氏（武蔵野美術大学大学史料室）

「美大にとってアーカイブズとは何か—日々の業務からの考察—」

石田氏は、美術大学においても沿革史資料の骨格となるのは文書であり、その肉付けとして写真や図面、実物史料などがある。他大学との大きな違いはない、と切り出した。しかし一方で、武蔵野美術大学では卒業単位の約半分が実技科目であり、ほとんどの学科が卒業制作を提出している、と美大の特異性を説明した。

各研究室では学生が日々の授業で制作した課題のうち、特に優れたものを次年度以降の参考とするため、学生から預かってきた。この「実技課題参考作品」を、廃止となった短期大学部の記念誌に掲載することに。その編纂を通じて、課題は教育内容や学生の理解度、技法等が具体的に見て取れる記録であると痛感。さらに教員・学生の作品は制作者の感性や個性を表現するだけでなく、各時代の大学と、大学における教育を反映しているのではないかと感じるようになったという。

結びに石田氏は、学内各部署および他大学と連携する重要性について触れた。

**報告3** 浅沼薰奈氏（大東文化大学大東文化歴史資料館）

「百年史編纂に向けての『新たな』資料と『評価』」

歴史資料館が開設された2006年度当初について、「部屋はあるが、紙切れ1枚ない状態」と振り返った浅沼氏。手探りで始めた活動だが、卒業生や古くから在籍する教職員らに声を掛け、資料収集や展示の企画など実務に取り組むうちに「漢籍から書道、スポーツへ」といった自校史資料の傾向や特徴がつかめてきたという。

2023年の100周年を見据え、2013年には90年史を出したい。だが50年史編纂時の資料は散逸し、50年史の記述に対する各方面からの疑問という問題にも直面。「資料のない資料館」だからこそ、座談会やインタビューなどで新たな資料を収集、少しづつ積み上げてきた。

聞き取り調査を検証すると、年史の記述と食い違う部分もある。けれど浅沼氏は、当時の学生たちが大学に持っていた印象などは人それぞれ違いがあつて当然であり、一つの事実として受け止めるべき、との思いを語った。

また浅沼氏は戦時下体制や学生運動、不祥事など「負の大学史資料」に対するスタンスについて助言を求めた。

**検討会** 桑尾氏が課題として挙げた各部署からアーカイブズへの文書移管について、参加者から様々な実情、取り組みの実例などが紹介された。まずは学内にアーカイブズという組織の存在を知つてもらい、有用性を理解してもらうこと。そのためにはアーカイブズを「貸倉庫」と思つて使ってくれるようアピールするのも一つの手段、といった声もあった。

石田氏が論じた美大におけるアーカイブズについて、同じ美術系の大学から共通点と相違点、双方の意見が。また教育の専門性に関わらず、

すべて大学にとって学内の他部署、とりわけ博物館や美術館や（Museum）、図書館（Library）とアーカイブズ間、いわゆる「MLA連携」を円滑に進めることが重要との声が聞かれた。

また浅沼氏は聞き取り調査の評価方法に関する質問に応じ、執筆段階でない今は、恣意的に取捨選択することなく、すべてを残していると回答。その姿勢を支持するように参加者から「負の史資料」に関して、アーカイブズの役割は次世代につなげることであり、数年ないし数十年先の年史編纂時に役立ててもらえるよう、客観的な立場で事実は事実として保管しておくべきとの意見が出された。

終わりに司会の齊藤氏は、新たな史資料の収集やノウハウの獲得に、全国大学史資料協議会のネットワークを活用してほしいと呼び掛け、閉会した。  
（中西祐悟）

## ご案内

全国大学史資料協議会及び同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

### 【日本大学・広報部大学史編纂課】

〒359-0003

埼玉県所沢市中富南4-25

☎ 04-2996-4555

### 【武蔵野美術大学・大学史史料室】

〒187-8505

東京都小平市小川町1-736

☎ 042-342-6091

## 会報編集

### 【神奈川大学・大学資料編纂室】

〒221-8686

横浜市神奈川区六角橋3-27-1

☎ 045-481-5661